記　者　発　表

令　和　４　年　９　月　６　日
国土交通省　東北地方整備局
玉　川　ダ　ム　管　理　所

令和４年８月　停滞する前線による一連の出水での玉川ダムの対応状況について（速報）

●停滞する前線の影響により、**玉川ダム（秋田県仙北市）における８月の流域平均累加雨量は 727mm となり、既往第１位を記録しました（年間降水量の約３割に相当、８月だけでなく全ての月間降水量の第１位）。**
●また、**既往第２位となる流入量１，１４５ m3/s を記録**（既往最大１，１９５ m3/s（H29.8.25））した８月３日の洪水をはじめ、**８月だけで７度の洪水※１が発生**しました。
●玉川ダムの洪水調節により、８月３日の洪水では**下流河川の長野水位観測所（秋田県大仙市）地点で水位を約１．５ｍ低減**させることができたと推測されます。

■８月の出水概要（速報値）

期　　間	令和４年８月１日～３１日
流域平均累加雨量	７２７ mm　（既往第１位）
最大時間雨量	流域平均　３４．８ mm　（8 月 3 日 10:00 ～ 11:00）
最大流入量※2	毎秒　１，１４５立方メートル　（8 月 3 日 12:10）
最大流入時の放流量※3	毎秒　７２立方メートル
最大調節量※4	毎秒　１，０７３立方メートル　（8 月 3 日 12:10）
8 月洪水時の総貯留量※5	約　２，５２０万立方メートル　（8 月 3 日～ 18 日）

※速報値につき、今後情報が変更となる可能性があります。

○詳細は別紙のとおり

※1　洪水＝玉川ダムではダムへの流入量が毎秒 200m3 以上となったものを洪水と定義
※2　最大流入量＝ダムに入ってきた１秒間の最大の水の量
※3　最大流入量時の放流量＝１秒間に最大の水の量が入ってきているときのダムから流している水の量
※4　最大調節量＝ダムに入ってきた１秒間の最大の水の量－その時のダムから流している水の量
※5　貯留量＝ダムに貯め込んだ量

＜　記者発表：秋田県政記者会、秋田魁新報社角館支局、
秋田建設工業新聞、建設新聞社秋田支局＞

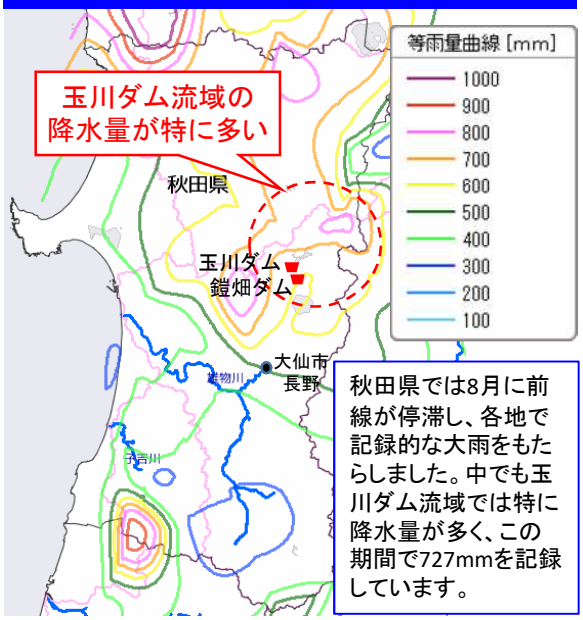
問い合わせ先

国土交通省　東北地方整備局　玉川ダム管理所
管理所長　平葭（たいよし）　健作（けんさく）　（内線：２０１）
専門職　成田（なりた）　進也（しんや）　（内線：３３０）
〒 014-1205　秋田県仙北市田沢湖玉川字下水無９２
電話：0187-49-2170　／　FAX：0187-49-2166

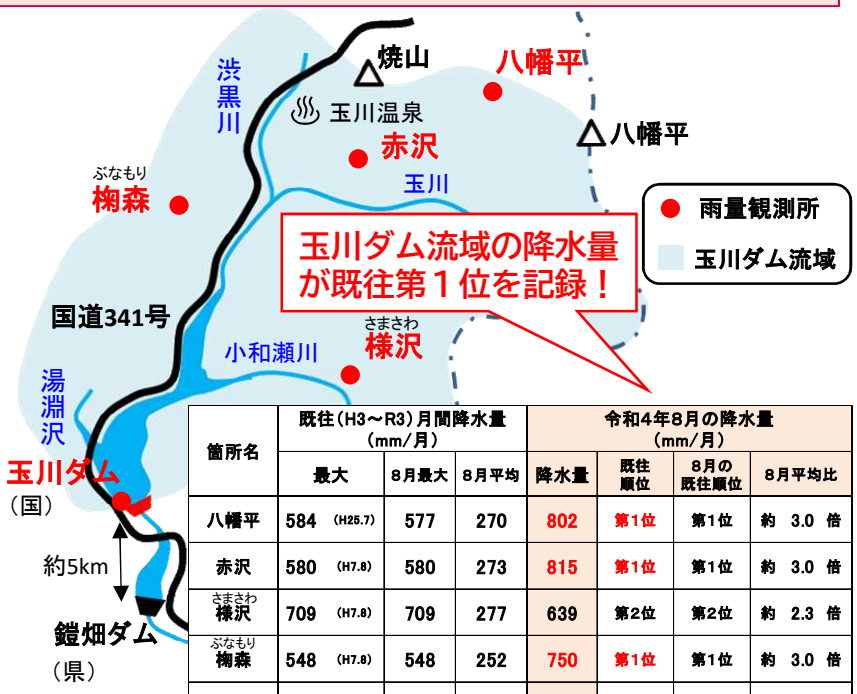
停滞する前線における玉川ダムの対応状況

- 令和4年8月、停滞する前線の影響により玉川ダムの雨量観測所5箇所のうち3箇所で月間の既往最大雨量を更新し、流域平均累加雨量も727mmと既往最大雨量を大きく更新。これは年間雨量の約3割に相当（H3～R3平均年間降水量2,334mm）
- 玉川ダムではダム完成後2番目となる大きな洪水（ダム流入量毎秒1,145m3）となった8月3日をはじめ8月中に7度の洪水が発生し、長期間に渡る洪水調節を実施
- ダムで洪水時に貯留した水量は累計で約2,520万m3（東京ドーム20杯分）
- ダムへの貯留による河川の水位低減効果は、大仙市長野地点で最大約1.5m
- 下流河川に直接影響のある鎧畑ダムの放流量を抑えるため、玉川ダムの放流量を抑制

8月の等雨量曲線図

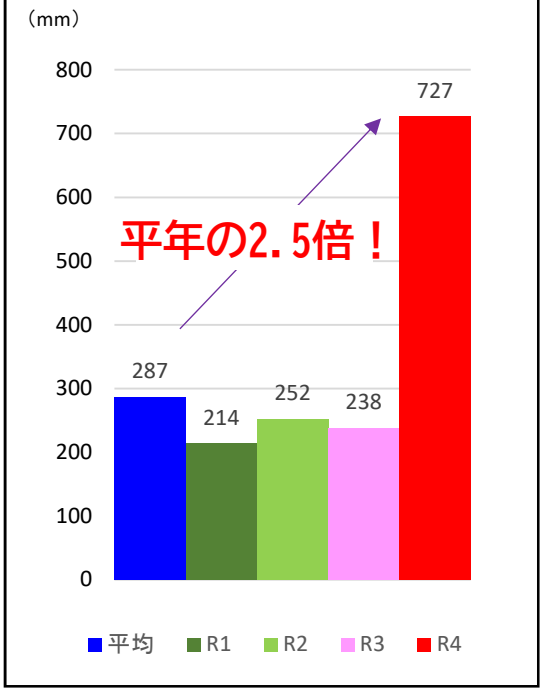


秋田県では8月に前線が停滞し、各地で記録的な大雨をもたらしました。中でも玉川ダム流域では特に降水量が多く、この期間で727mmを記録しています。



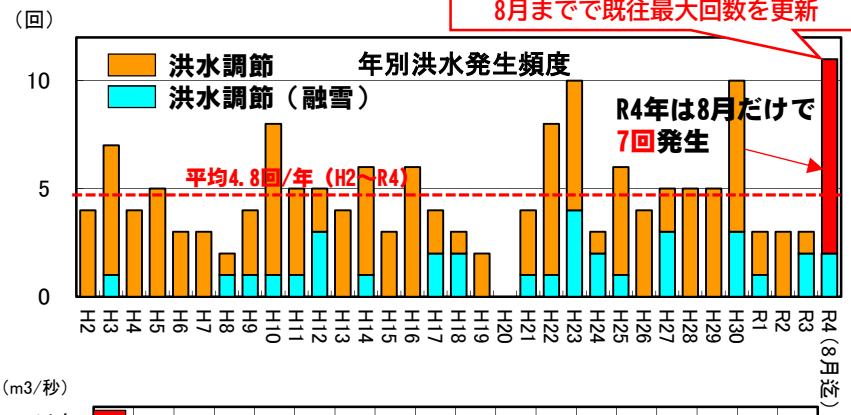
箇所名	既往（H3～R3）月間降水量（mm/月）			令和4年8月の降水量（mm/月）			
	最大	8月最大	8月平均	降水量	既往順位	8月の既往順位	8月平均比
八幡平	584 (H25.7)	577	270	802	第1位	第1位	約 3.0 倍
赤沢	580 (H7.8)	580	273	815	第1位	第1位	約 3.0 倍
さまさわ 様沢	709 (H7.8)	709	277	639	第2位	第2位	約 2.3 倍
ぶなもり 栂森	548 (H7.8)	548	252	750	第1位	第1位	約 3.0 倍
玉川ダム	715 (H7.8)	715	294	630	第3位	第2位	約 2.1 倍
流域平均	621 (H7.8)	621	287	727	第1位	第1位	約 2.5 倍

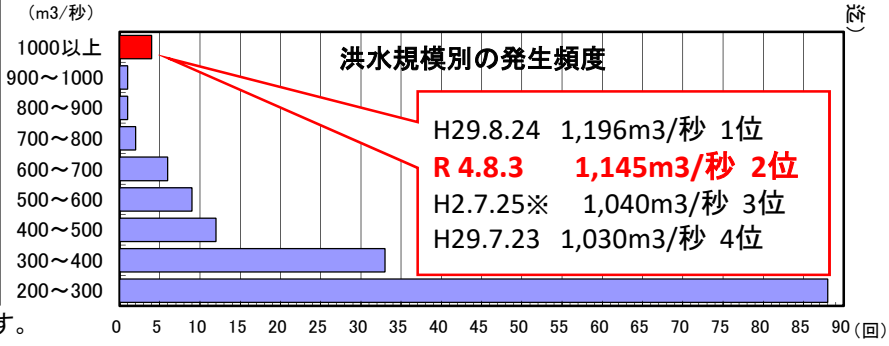
8月降水量（玉川ダム流域）



注：本資料では防災操作を洪水調節と表現しています。

洪水調節11回：既往第１位
8月までで既往最大回数を更新

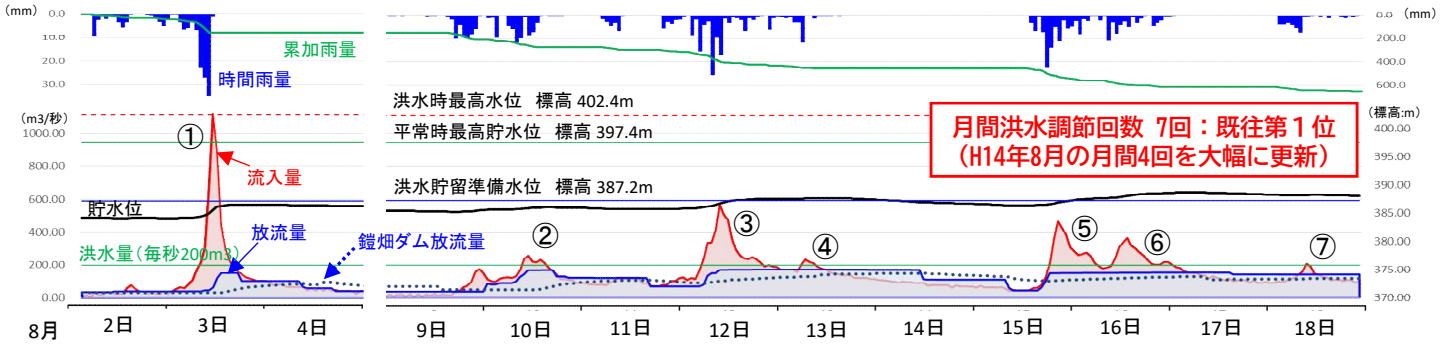




前線が停滞し続けた8月の洪水調節状況

前線が停滞した影響で、玉川ダムでは既往第2位の流入量を記録した8月3日を含め、18日までに7度の洪水が発生しました（月に7度の洪水発生はダム完成後初）。

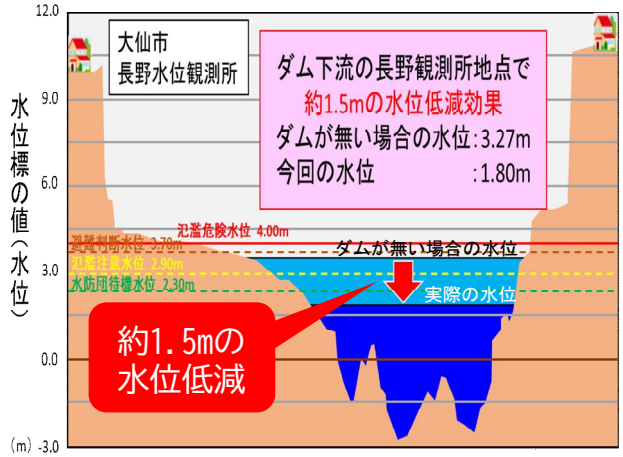
この7度の洪水でダムに貯め込んだ水量は約2,520万m3であり、東京ドーム20杯分という莫大な量に相当し、この水量分が下流河川の負担軽減となっています。

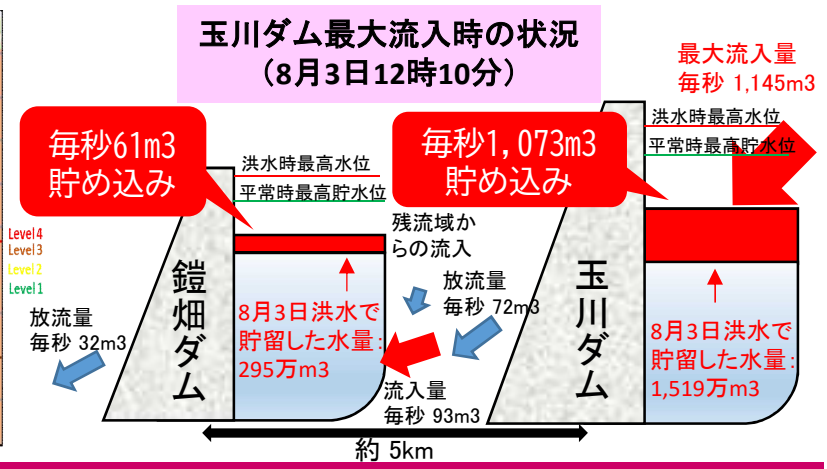


8月3日洪水での鎧畑ダムと玉川ダムの洪水調節状況

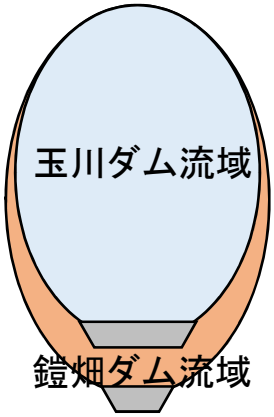
玉川ダムの直下流には鎧畑ダムがあり、玉川ダムからの放流は鎧畑ダムに一旦受け止められ、下流河川には鎧畑ダムから放流されます。

8月3日の洪水においては玉川ダムでそのほとんどを貯め込み、さらに鎧畑ダムにおいても貯め込みを行い、玉川ダムへの最大流入時（毎秒1,145m3）に、下流河川には毎秒32m3を流すという2つのダムでの調節効果が発揮されています。





鎧畑ダムとの連携による河川水位低減の取り組み



前述のとおり玉川ダムからの放流は、鎧畑ダムに一旦受け止められ、鎧畑ダムから放流されます。

鎧畑ダムでは玉川ダムからの放流量のほか、鎧畑ダムの流域（33．3k㎡）からの水も流入しますので、鎧畑ダムの容量に余裕が無い時、放流する水量は玉川ダムより多くなりがちです。

このため、洪水が発生した際に玉川ダムの容量に余裕がある場合、玉川ダムの放流量を抑えることにより、下流河川の水位に直接影響のある鎧畑ダムからの放流量を抑えることができます。

こうした被害の防止や軽減につながる取り組みを、鎧畑ダムと連携して行っています。

玉川ダム流域（287．0k㎡）
鎧畑ダム流域（　33．3k㎡）

- 8月の7回の洪水では、玉川ダムの最大放流量毎秒200m3のところ、最大で毎秒170m3程度に抑え、鎧畑ダム及び下流河川への負担を軽減しています。